

## 研究主題「複数の情報を基に、読みを広げたり深めたりできる児童の育成

### ー比較・関連付けて読み取る力を高める指導の工夫を通してー」

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
墨田区立両国小学校 教諭 村松 裕香

#### 第1 研究のねらい

「小学校学習指導要領（平成29年3月告示）」総則では、授業改善の視点として、「知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること」と示されている。

しかし、所属校においては、既習事項や複数の情報を結び付けて自分なりの疑問や考えを導くことや、友達との交流活動を通して自分の考えを深めること等、主体的に学びを広げたり深めたりすることに課題があると感じている。情報の類似点や相違点、不足点から、新たな疑問や発見が生まれると考えると、学びを深めるためには、複数の情報を比較・関連付ける力を更に高めていく必要があると考えた。東京都の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の小学校国語科においても、例年「比較・関連付けて読み取る力」の正答率の低さが課題であり、授業改善のポイントとして、「複数の叙述を基に考えさせることが大切」と示されている。

これらのことから、複数の情報を比較・関連付けて読み取る力を高める指導を工夫することで、児童は読みを広げたり深めたりできるようになると考えた。そうした学習を積み重ねることにより、児童は読みの楽しさを知り、主体的に学びに向かう姿勢にもつながっていくだろう。価値観が多様化し、多くの情報が行き交う現代社会において、複数の情報から、物事の本質や新たな価値観を見いだす力は必要なものだと考える。そこで、児童が比較・関連付けて考えるよさや方法を理解し、読みの広がりや深まりにつなげていけるよう、比較・関連付ける対象や方法を整理し、限られた時数の中でより効果的に指導する方法を開発する。

#### 第2 研究仮説

小学校国語科において、比較・関連付ける対象範囲を段階的に広げ、読み取ったことを可視化する指導の工夫をすることで、児童は比較・関連付けて読み取る力を高め、複数の情報を基に、読みを広げたり深めたりできるようになるだろう。

#### 第3 研究の内容と方法

##### 1 基礎研究

文学的な文章教材の指導や複数教材を用いた指導等について、文献や先行研究の分析を行い、開発研究の視点を整理した。本研究において、「読みを広げる」とは、作品を捉える視点や課題に対する情報（根拠となる叙述や他の文章、友達の考え、自分の経験等）を複数もつこと、「読みを深める」とは、複数の情報の関係性や意味を見いだすことと定義した。また、文学的な文章を読むことにおける指導について、過去の調査研究を分析した。東京都の「平成27年度教育研究員研究報告書（小学校国語）」によると、文章全体を課題解決の過程で読むことを意識している教師は28.7%、他の作品と比べて考えをもたせている教師は15.8%にとどまっていることが分かった。これらのことから、読みの広がりや深まりのために、複数の情報を比較・関連付けて読むことが効果的であると示せるような指導方法を開発する必要性が明確になった。

## 2 開発研究

### (1) 比較・関連付ける対象範囲を段階的に広げる工夫

図1のように、まずは主教材等の単一教材、次にシリーズ作品等で内容面の関連性がある教材、次に他の作者の作品等で構成や表現技法の関連性がある教材、最後に児童が自分で考えた観点で選んだ作品という順に、比較・関連付ける対象範囲を段階的に広げながら、それぞれに適した課題を設定する。副教材は、表1のように選定する。前後の単元との関連性も踏まえることで、一単元にとどまらず、単元間の学習のつながりも図る。

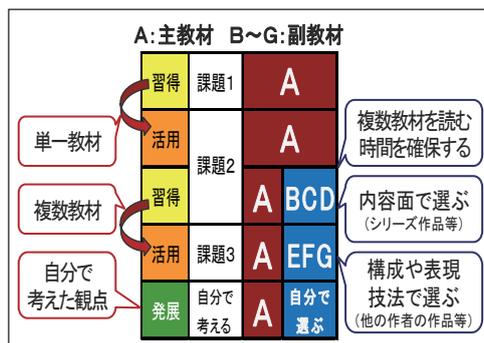


図1 単元の流れ

表1 副教材選定上の留意点

	選定上の留意点	具体例	本検証授業で使用した作品 主教材『白いぼうし』（あまみきこ）
共通の留意点	○指導事項に適している作品を選定する。 ○作品は複数提示し、読む作品や数を児童が選択できるようにする。 ○児童の実態に合わせて、物語の展開や文章量を考慮し、その難易度に幅をもたせて複数の作品を用意する。		
内容面で選ぶ場合	○前時で習得した読み方が活用できる作品を選定する。 ○主教材との共通点や相違点が読み取れる作品を選定する。	・シリーズ作品 ・同一テーマの作品（「おに」、「友達」等） ・同じ作者の作品	「車のいろは空のいろ」シリーズより『小さなお客さん』、『雲の花』『山ねこ、おことわり』『草木もねむるうしみつどき』
構成や表現技法で選ぶ場合	○主教材と構成面や表現の工夫において関連性がある作品を選定する。 ○本単元前後の学習との関連性がある作品を選定する。	・既習の作者の別作品 ・既習のファンタジー作品 ・次単元や次学年で学習する教材の作者の別作品や、類似の題材の作品	『スイミー』（レオ・レオニ） 『白い花びら』（やえがしなおこ） 『手ぶくろを買いに』（新美南吉） 『クリの実』（椋鳩十） 『ゆず』（杉みき子）
児童が選ぶ場合	○自分で選ぶことが難しい児童のために、参考図書として右の「具体例」のような作品を用意しておく。 ○司書と連携して授業を実施する。 ○読書記録を活用させる。	・本単元で読んだ作品 ・前学年までの教科書掲載作品 ・別会社の教科書掲載作品 ・「ほん・本・ごほん」（東京都子供読書活動推進資料）掲載作品	例）「ぼうし」という観点では、『ミリーのすてきなぼうし』（きたむらさとし） 『おにたのぼうし』（あまみきこ） 等

### (2) 読み取ったことを可視化して比較・関連付ける工夫

複数の情報を整理し、読みの広がりや深まりを実感できるようにするために、それぞれの課題に適したワークシートを用意する。比較・関連付けながら考えをまとめていくための方法を知り、今後の学習の中で活用できるようにしていく。

ア 全文が一覧できるワークシートで複数の叙述を比較・関連付けられるようにする。余白への書き込みをすることや、線で結んだり色分けをしたりすることを指導する。

イ 図形や矢印、表等、それぞれの課題に適したワークシートを用い、複数の情報を整理して考えをまとめられるようにする。図形の結び方や形に意味をもたせることの効果、表の利便性等を実感できるようにする。図2の「登場人物の心マップ」はその一例である。

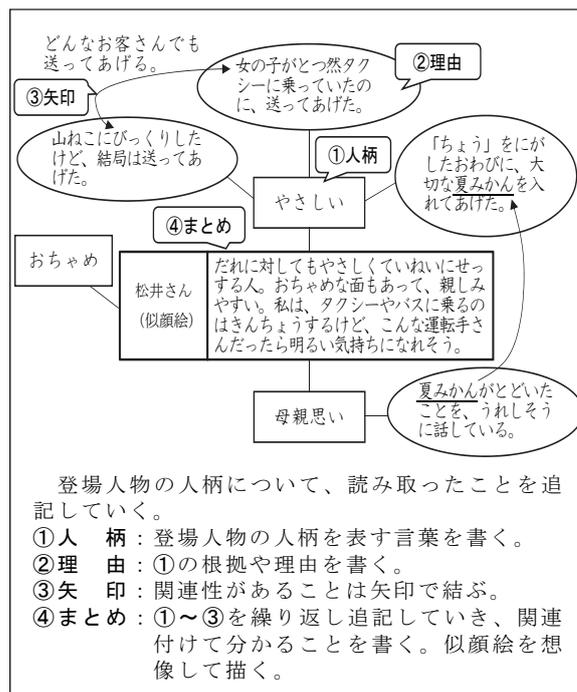


図2 「登場人物の心マップ」の書き方

「複数の情報を基に、読みを広げたり深めたりできる児童の育成  
 -比較・関連付けて読み取る力を高める指導の工夫を通して-

### 3 検証授業及び検証授業の分析

#### (1) 検証授業の概要

都内公立小学校第4学年において、表2のような単元計画で授業を実施した。

表2 単元計画

単元名「くらべて、つなげて、物語の世界を広げよう、深めよう」		教材名『白いぼうし』（あまんきみこ）他			
次	時	ねらい	比較・関連付ける対象範囲	比較・関連付けるもの※1	比較・関連付けるときの言葉※2
一	1	教材文に興味をもち、読みの課題を整理する。	単一教材（『白いぼうし』）	○友達の考えと自分の考え ○友達の考えと他の友達の考え	自分だったら……
二	2	「女の子が『ちょう』だと思わける」について、文章全体を関連付けて読む。	単一教材（『白いぼうし』）	○場面と場面（ファンタジーの入口・出口、伏線）	似ている・違う
	3	「松井さんの人柄」について、文章全体の地の文や行動、会話等から関連的に捉えて読む。	単一教材（『白いぼうし』）	○場面と場面（登場人物の変化） ○会話・行動と、登場人物の気持ち・性格	いつも・ときどき
	4				
	5	「松井さんの人柄」について、シリーズ全体から複数の叙述を根拠として捉え、比較・関連付けながら読む。	複数教材（『車のいるは空のいる』シリーズ）	○会話・行動と、登場人物の気持ち・性格 ○作品と作品（目的に応じた読書）	最初・最後
	6				
	7	『白いぼうし』と比べながら、それぞれの作品の工夫された表現に気付く。	複数教材（別の作者の作品）	○作品と作品（目的に応じた読書）	多い・少ない
8	「工夫された表現」に注意し、物語の世界を想像豊かに読む。	複数教材（『白いぼうし』中心）	○情景と、登場人物の気持ち・性格	全体・部分	
三	9	自分で決めた観点（テーマ）で『白いぼうし』と複数の作品を関連付けて、紹介カードにまとめる。	複数教材（自分で選んだ作品）	○作品と作品（目的に応じた読書）	原因・結果

※1：「学習のポイント」として、教室に掲示した。 ※2：児童の学習感想等から随時取り上げ、教室に掲示した。

#### (2) 検証授業の分析

表3のように、「読みの広がり」や「読みの深まり」に関わる姿が見られた。児童の学習感想には、新しい読みの視点や課題に対する複数の情報を得たことによる「読みの広がり」を自覚する記述が多く見られた。これは、比較・関連付ける対象範囲を段階的に広げたことが有効であり、それぞれに設定した課題も適していた結果だといえる。そのことが、第9・10時で、幅広い視点で観点が出され、意欲的に本を探す姿につながったと考える。「登場人物の心マップ」には、9割の児童が複数の性格・理由を書くことができたが、「④まとめ」に書く内容が、性格の羅列になってしまう児童も見られた。学習全体を通して、「読みの深まり」の実現のためには、児童の思考を顕在化させて価値付けるための、より一層の手だての必要性が明らかになった。

表3 読みの広がりや深まりに関わる児童の発言や記述内容とその分析

時	嫌	読みを広げた姿	読みを深めた姿	分析（よい点）
3・4	全体	松井さんの性格が分かる叙述を集める ①夏みかんを送ってくれたおふくろの気持ちを思っている。 ②ちょうを逃がしてしまった時は、とてもあわてている。 ③たけおくんの気持ちを思って、夏みかんを入れてあげている。 ④女の子に、丁寧に接している。 ⑤笑いがこみ上げているところから、いたずら好きな面もあるのだろうか。	全体交流で考えを深める。（関連付けた情報） ・大切な夏みかんを入れて優しい。（①③） ・誰に対しても思いやりがある。（①③④） ・「あわてて」は3回もある。あわてんぼうな面もある。（②） ・ちょうを逃がした時は、あんなに落ち込んでいたのに、楽しくなっている。前向きで立ち直りが早い。（②⑤） ・こんな松井さんだから、「よかったね。」という声が聞こえた。（新たな考え）	・行動の意味付け ・類似点から一般化 ・繰り返される言葉に注目 ・中心人物の気持ちの変化への気付き ・因果関係への気付き
	A観 B観 C観	シリーズ作品を読んで「登場人物の心マップ」に追加した内容（読んだ作品数） 「優しい」、「思いやり」に理由を追加。（1） 「思いやり」に理由を二つ追加し、「優しい」と矢印で結ぶ。（2） 「優しい」、「賢い」に理由を三つ追加。「失礼」、「乱暴」という性格を書き加え、理由を四つ追加。（4）	性格や理由の追加をした後、「登場人物の心マップ」の「まとめ」に書いた内容 誰かのことを心配している時には優しい。 松井さんのお客はみんな笑顔になる。お客は、松井さんを尊敬していると思う。 少し失礼な面もあるけど優しい面が多い。 失礼な面が出たお話の最後は、必ず優しい面が終わっていた。	・条件付け ・他の登場人物の視点からの考え ・相違点と共通点や、作品の規則性への気付き
7・8	D観	第7時の学習感想 「雪」や「夜」も色だ。	第8時の学習感想 （読むことが苦手な児童だが意欲的に取り組んだ。） レモンより夏みかんの方が松井さんに似合っていると思ったけれど、そうだとしたら、題名が『夏みかん』でないのはなぜか。	・想像の膨らみ ・作者の視点 ・表現と内容の関連 ・新たな疑問
	E観	『白いぼうし』以外の作品にも、同じ工夫や違う工夫があった。（作者は）読みやすいように工夫しているのが分かった。	夏みかんはファンタジーの入口と出口の門番。	・表現と展開の関連
	F観	「夏みかん」のことは思いもなかった。		
9	全体	児童から出た観点（テーマ）：「松井さん」、「運転手」、「やさしい登場人物」、「ぼうし」、「くだもの」、「ファンタジー」、「白」、「色」、「比喩」、「あまんきみこ」		・内容以外にも、構成、表現に関わるテーマ

### (3) 事前・事後の検証結果より

検証授業を行った児童 86 人に対し、文学的な文章を読むことにおいて、複数の情報を比較・関連付けながら読みを広げたり深めたりしているかについて、検証授業の前後で、意識調査（表 4）と、読解調査（図 3）を行った。検証授業後には全ての項目において、肯定的な回答、評価の割合が上昇した。特に、図 3 の二項目では、上昇率が高かった。読みの視点の広がりが見受けられ、本研究の手だてが「読みの広がり」につながったといえる。ただし、読解調査では、「読みを深めている」割合の上昇率は低かった（図 3「A」評価）。児童が独力でも読みを深められるようにするためには、継続的な指導や新たな手だてにより更に力を高めていく必要があるといえる。

表 4 意識調査の前後比較

○意識調査：児童への質問紙調査（5 件法）

「国語の授業で、物語を読むとき、自分の考えを深めるために、あなたは次のことがどれくらいできていますか。」という質問に、肯定的な回答をした児童の割合 n=86 (%)

調査項目	事前	事後
課題について考えをまとめるときは、物語全体からなるべくたくさん理由を探して、比べたりつなげたりして考えている。	67.4	83.7
前に学習した物語や、他の物語と比べながら読んでいる。	55.8	67.4
物語の内容と自分の経験を比べながら読んでいる。	65.1	74.4
会話文だけでなく、行動や場面の様子等（多様な種類の叙述）を結び付けて読んでいる。	68.6	73.3
工夫された表現に注意して読んでいる。	81.4	84.9
場面と場面を比べたりつなげたりしながら読んでいる。	68.6	70.9

○読解調査：児童が初見の物語文を読み取って回答した記述内容を、評価規準により教師が 3 段階評価。

評価項目は、表 4 の意識調査と同一の 6 項目。（同一の物語で 7 月と 11 月に実施。事後調査では 2 回目の読みとなる。）

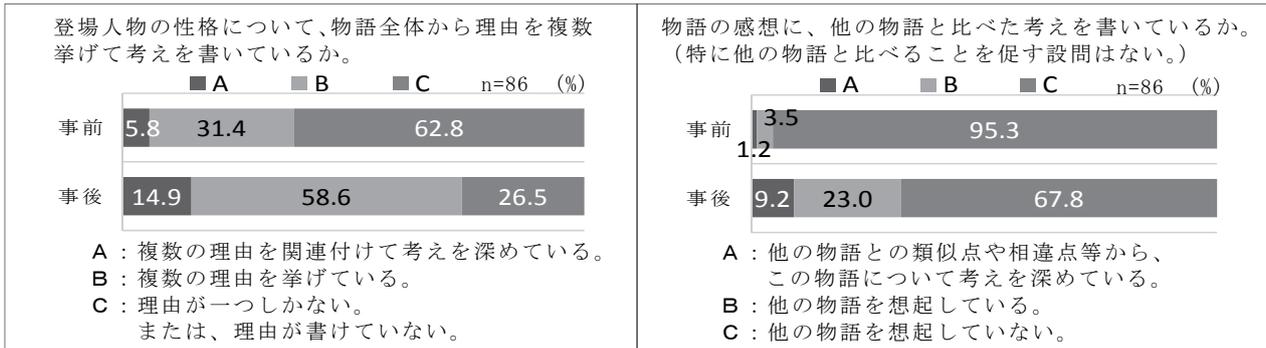


図 3 読解調査の前後比較

## 第 4 研究の成果

- 比較・関連付ける対象範囲を段階的に広げる工夫により、児童は作品を捉える視点や課題に対する情報を複数もてるようになり、「読みの広がり」が見られた。読み取ったことを可視化する工夫のうち、特に「登場人物の心マップ」は幅広い視点で考えを書き出しやすく、9 割の児童が複数の作品から読み取ったことを比較・関連付けながらまとめることができた。一方、より多くの児童が「読みの深まり」まで到達できるようにするためには、児童の思考を顕在化させて価値付ける教師の意図的な支援を、継続していく必要性が明らかになった。
- 読みを広げたり深めたりすることの副次的な効果として、児童の習熟度に関わらず、主体的に学びに向かう姿勢が見られた。「この読み方やこのお話なら分かる」という自信や、「次はどんなお話かな」、「読み直す度に発見があるな」という学ぶ意欲の喚起につながった。

## 第 5 今後の課題

- 「読みを深める」ためのより効果的な手だてを開発する。今回開発した読み取ったことを可視化する方法の改善や、教師が児童の思考を価値付けていける評価方法の開発を行う。
- 単元間や学年間、他教科や行事との関連を踏まえた国語科年間指導計画を作成する。
- 国語科にとどまらず、児童が主体的に学びを広げたり深めたりすることにつなげていく。